

## 採択事業 NO.1

種 別：行政提案型

団体名：女性の視点で防災を考える宝塚どないしょネット

事業名：「たからづか発 私の防災力 UP ガイド」改訂版作成

交付決定額：423,000 円

### （事業を行おうとした動機・必要性）

私たちは 2011 年度に開催された宝塚市人権男女共同参画課主催の市民プロデューサー養成セミナーの受講修了生有志です。

私たちは学びを続けていくうちに、避難所での性暴力や性差別について知り、これは女性にのみ関わる課題ではなく、高齢者、障害者、子ども、海外にルーツのある人、性的マイノリティ等、社会の中で「マイノリティ」「災害弱者」と呼ばれる人たち、さらには男性も含め全ての人に関わることだと気づきました。

私たちは住み慣れた町で、ずっと安全に安心して暮らしていきたいと願っています。大きな災害があっても復旧・復興の第一歩を一日でも早く大きく踏み出し日常を取り戻すためには、発災直後からの被災地や避難所での性暴力防止が大変重要で、もしものときにそうした対応を素早くとるために日頃からもしもを想定して学び続け、気づきや学びを周りに広げ共有していくことが大切だと考えました。

そこで、2012 年 3 月「女性の視点で防災を考える 宝塚どないしょネット」を結成し、まずは市民一人ひとりに防災の当事者意識を持ってもらう目的で防災ガイドブック「たからづか発 わたしの防災力 UP ガイド」や防災ワークショップをするためのパーソナルカード、ワークシートを市人権男女共同参画課と協働で作成しました。このガイドブックを使って様々な場所で防災ワークショップや講演を開催してきました。

令和 6 年能登半島地震が発生し、私たちの活動はまだまだ世の中に必要であること、続けなければいけないことだと感じました。しかし、ガイドブック作成から 10 年以上が経ち、防災の進歩に伴う情報の見直しが必要だと考えています。例えば、初版には無い「スフィア」など、国際的な理念等を盛り込むことも必要だと感じています。そこで、「たからづか発 わたしの防災力 UP ガイド」改訂版を作成し、それを使って防災ワークショップを行うため、本事業の申請をします。

### （事業を行う目的と期待される効果）

私たちは防災・性暴力防止のために、一人でも多くの人たちに防災を我がごととして考えて欲しいと思っています。改訂版を使って防災ワークショップを行い、様々なケースで「自分ならどうするか？どう思うか？」を考えてもらうことで、場合によっては正解がないことも含め、学びや気づきを期待します。

<効果の広域性>

「たからづか発 わたしの防災力UP ガイド」を使って防災ワークショップや講演を行ううちに、メンバーが所属する他の活動や役目から兵庫県内に活動の場が広がっていきまし  
た。ネット環境があれば、世界中どこからでも私たちのガイドブックにアクセスできます。

<独創性>

ガイドブックの中で「自分力・地域力・市民力」という言葉を使っています。これは、「自  
助・共助・公助」という言葉が一般的でない中で、防災を我がごととして考えてもらうた  
めに考え出した言葉です。また、「無理に帰宅しない・安全を確保したうえでとどまる」とい  
う考えも盛り込みました。これも帰宅困難者対策がまだあまり知られていなかった頃に考  
えたものです。当時、今ほど知名度が高くなかった「南海トラフ地震」を想定した記述もあ  
ります。改訂版を作成するにあたり、現状に満足せず、さらに多様な視点で防災を考えます。

<継続性>

補助金で改訂版を作成した後は、その改訂版を使って防災ワークショップや講演を行い、  
防災活動を継続して行います。

**(事業の内容)**

採択直後から 10 月頃まで、少なくとも月に 1 回程度参集もしくはオンラインで協議を  
重ねます。参集場所は、公民館や市内の公共施設を使用します。

11 月頃には改訂版の原稿を決定、印刷します。

来年 1 月 17 日は阪神淡路大震災から 30 年の節目で、改訂版を使って防災ワークショ  
ップを実施したいと考えます。また、必要に応じて防災専門職・関係者の講演等も考えてい  
ます。